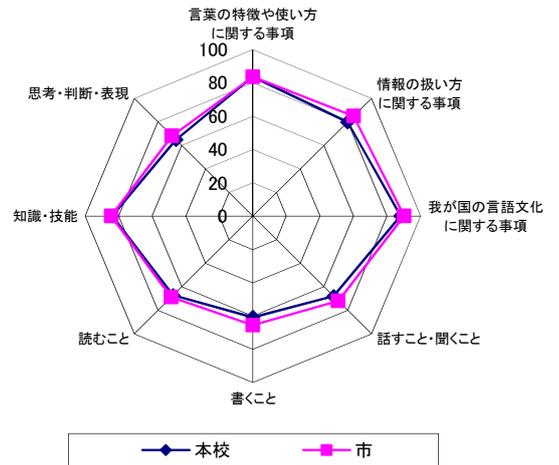


宇都宮市立陽西中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	83.7	83.6	80.3
	情報の扱い方に関する事項	79.9	85.0	78.9
	我が国の言語文化に関する事項	88.1	90.2	84.2
	話すこと・聞くこと	68.1	72.1	67.8
	書くこと	60.8	65.5	51.8
	読むこと	67.3	68.9	57.8
観点別	知識・技能	83.8	84.4	80.5
	思考・判断・表現	64.9	68.2	57.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

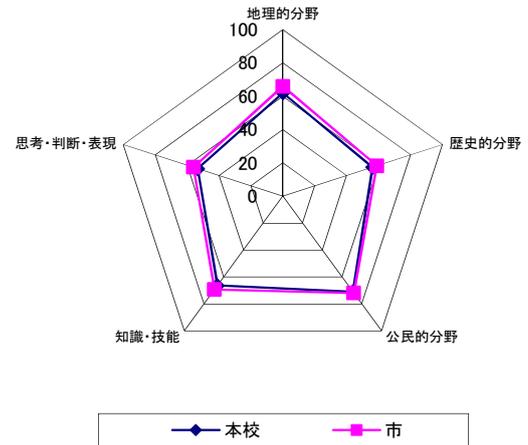
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	市の平均よりも0.1ポイント上回っている。 ○「第3学年までに学習した漢字を正しく読んでいる」の問題では、3問中2問市の平均を上回っている。 ●「故事成語について理解している」の問題では、市の平均を5ポイント下回っている。	・故事成語に関する事項については『国語便覧』などの資料集を用いて、授業中や家庭学習として適宜取り上げ知識の定着を図る。 ・漢字練習帳を十分に活用し、定期的に小テストを行い、漢字の読み書きを習得させる。
情報の扱い方に関する事項	市の平均よりも5.1ポイント下回っている。 ●「情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使っている」の問題では、市の平均を5.1ポイント下回っている。	・情報と情報の関係についての理解を助けるために、図や絵、記号などを使って整理し複雑な関係を把握したり、自分の思考を確認したりする授業を適宜行う。
我が国の言語文化に関する事項	市の平均よりも2.1ポイント下回っている。 ●「現代語訳を手掛かりに古典を読んでいる」の問題では2.1ポイント下回っている。	・古典の授業では、ペアやグループなどいろいろな形態で音読を繰り返し行い、歴史的仮名遣いの読みや古典特有の文末表現に慣れさせる。また、わが国で長く親しまれている古典の一節を暗誦させるなどして古典に親しませる機会を設ける。
話すこと・聞くこと	市の平均よりも4ポイント下回っている。 ●「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している」の問題では市の平均正答率を8.2ポイント下回っている。	・グループやペアで話し合い活動の機会を多く設け、場の状況や相手の反応に応じて言葉を選ぶなどして、自分の考えを分かりやすく伝える工夫をしていくよう指導する。 ・聞き手としては、話の内容に興味を持ち、どのような立場に立ち、何を聞こうとするのかを意識させていく。
書くこと	市の平均よりも4.7ポイント下回っている。 ●「自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫している」の問題では13.1ポイント下回っている。	・授業の中で、様々な場面で自分の考えを書く機会を増やしたり、いろいろな種類の文章に触れさせたりすることで、書くことへの抵抗感を減らしていく。また、表現の仕方を考えたり資料(情報)を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わるように工夫した書き方を学ばせていく。
読むこと	市の平均よりも1.6ポイント下回っている。 ○「物語の展開の仕方を捉えている」の問題では市の平均正答率を1.8ポイント上回っている。 ●「文章の構成や論理の展開について評価している」の問題では、0.2ポイント下回っている。	・普段から、授業に関連した図書を紹介するなど、様々な種類の図書に触れさせ、書き手の表現の仕方を評価することで、自分が文章を書く際にも役立てるよう指導する。 ・様々な文章を読むことを通して、理解したことや評価したことなどを結びつけて自分の考えを広げたり深めたりできることを学ばせていく。

宇都宮市立陽西中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	62.0	66.0	57.8
	歴史的分野	56.3	58.9	51.4
	公民的分野	71.0	72.0	72.2
観点別	知識・技能	66.4	69.3	62.9
	思考・判断・表現	53.3	56.0	49.1



※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
 (社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

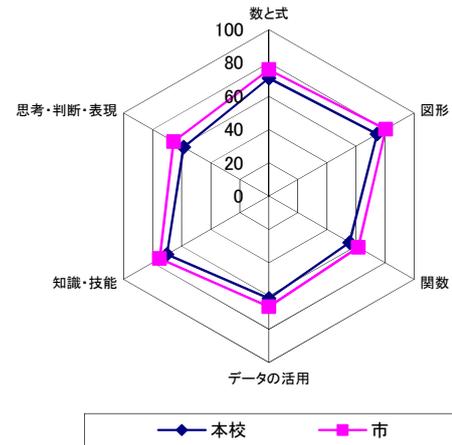
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	市の平均よりも4.0ポイント下回っている。 ○「日本の人口分布について理解する」の問題で、市の平均正答率を3.0ポイント上回った。 ●「東北地方・九州地方の産業と人口の特色についての理解をもとに考察する」の問題で、市の平均正答率を11.0ポイント下回った。	・小テストを継続して実施し、基礎的・基本的な知識を定着させる。 ・地域の特徴を地域的特殊性と一般的共通性の視点からとらえることができるよう授業を工夫していく。 ・産業と人口の特色については、地図帳の使用頻度を増やし、そこから読み取れることや人口分布図などの因果関係を意識させていく。また、産業の種類を整理させていく。
歴史的分野	市の平均よりも4.0ポイント下回っている。 ○「竪穴住居について理解する」の問題で、市の平均正答率を3.9ポイント上回った。 ●「世紀の表し方について理解する」の問題で、市の平均正答率を10.3ポイント下回った。	・小テストを継続して実施し、基礎的・基本的な知識を定着させる。 ・歴史的事象が、歴史の大きな流れの中でそれらがどのように関連しているのかについて理解を深めることができるよう授業を工夫していく。 ・世紀の表し方については、歴史の学習の始めに世紀の基本ルールをしっかり教える。
公民的分野	市の平均よりも4.0ポイント下回っている。 ○「新しい人権について理解する」の問題で、市の平均正答率を3.0ポイント上回った。 ●「公共の福祉について、資料の内容に着目して、自分の言葉で表現している」の問題で、市の平均正答率を6.2ポイント下回った。	・小テストを継続して実施し、基礎的・基本的な知識を定着させる。 ・ニュース、身近な生活、将来の生活などと結びつけて考えさせるよう授業を工夫していく。 ・資料に着目の意味を理解させ(数字・変化・比較・関係を読み取る)、原因や背景を考えさせる練習をしていく。

宇都宮市立陽西中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	70.9	76.0	69.0
	図形	74.5	80.5	67.7
	関数	55.7	61.6	55.0
	データの活用	61.6	66.5	56.4
観点別	知識・技能	70.1	75.1	69.4
	思考・判断・表現	58.7	65.6	47.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

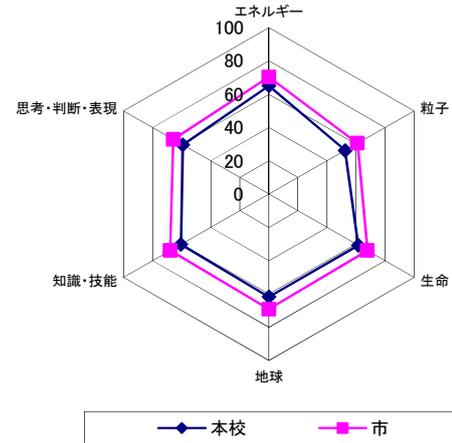
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>市の平均よりも5.1ポイント下回っている。</p> <p>○四則計算や同類項をまとめるなど正答率は市の平均とほぼ同程度である。</p> <p>●説明を読み示された式の別の意味を考えたり、囲んだ数の和の性質を示す問題の正答率が市の平均よりも10ポイントほど下回っている。</p>	<p>・基本的な四則計算や、平方根の考え方などよく使う計算や最近習ったものについての正答率は市と同程度であるが、比例式や連立方程式の計算など1・2学年で学習した内容の正答率が低かった。デジタルドリルを活用するなどして、学年を横断した学習内容を復習する機会を設け、復習に取り組ませる。</p>
図形	<p>市の平均よりも6ポイント下回っている。</p> <p>○市の平均よりも下回っている問題が多いが、すべての問において全国平均を上回っている。</p> <p>●補助線を引き、平行線の性質を利用して角の大きさを求める問題の正答率が市の平均を9.3ポイント下回っている。</p>	<p>・昨年度同様に1年次で学習する図形の移動や、2年次で学習する図形の性質を利用した問題の正答率が低い。学習した直後の理解度は高かったため、学習の定着が図られていないと考えられる。上記と同様に、過去の学習内容の問題演習を通して、定着を図る。</p> <p>・ほとんどの問で正答率が75%を超えているが、おうぎ形の面積を求める問の正答率が低く、計算技能の課題が見られる。</p>
関数	<p>市の平均よりも5.9ポイント下回っている。</p> <p>○動点でできる三角形の面積の変化の様子を捉える問や、1次関数の増加量を求める問では全国平均を大きく上回っている。</p> <p>●多くの問において市の平均を下回っており、特に反比例の式を立式する問では全国平均を10ポイント以上下回っている。</p>	<p>・比例と反比例の単元では、1年時から苦手とする生徒が多く学習内容の定着を図るために繰り返し復習をしてきたが、3年時になりしっかり定着が図れていなかったことが結果として表れた。しかし、比例の関係について聞かれた問については市の平均を上回っており、一部定着している部分も見られた。今後も苦手とする生徒が多い単元については復習する機会を十分に設け、丁寧に指導していく。</p>
データの活用	<p>市の平均よりも4.9ポイント下回っている。</p> <p>○確率や四分位範囲を求めるなどの基本的な問題については市の平均との差が小さい。</p> <p>●箱ひげ図から示された内容を考える問では、市の平均を6.6ポイント下回っている。</p>	<p>・数と式の領域においても、説明する問題や資料から読み取る問題の正答率が低かった。その原因として用語の意味を正しく理解できていないことがあげられる。言葉の意味を正しく理解できるよう指導するとともに、資料を読み取り正しく表現する力を機会をつくるなど、練習を繰り返す行う。</p>

宇都宮市立陽西中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	65.0	70.3	59.4
	粒子	52.5	61.1	56.4
	生命	61.6	67.9	62.7
	地球	61.8	69.1	65.6
観点別	知識・技能	60.5	67.9	63.8
	思考・判断・表現	59.3	65.7	57.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

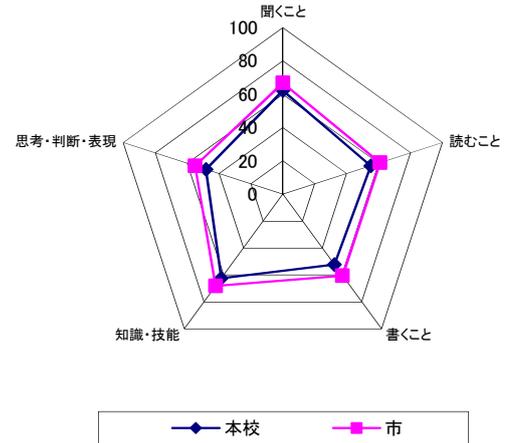
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	市の平均よりも5ポイント下回っている。 ●力学的エネルギー保存については約10ポイント下回った。	・物理分野は、実験結果から考察することを習慣化し、時間をかけて思考・表現する力を高めていく。 ・計算問題や作図問題に苦手意識を持っている生徒が多い。基本問題に時間を費やし、定着を図っていく。
粒子	市の平均よりも8.6ポイント下回った。 ●中和反応と塩については、約10ポイント下回った。	・化学の単元では、実験から導き出される結果について、考察する時間を十分に確保することで、科学的な思考・表現する力と実験の技能を高めていく。 ・粒子領域では、目に見えないため、モデルやパソコン教材などを使い、視覚に訴えるなど工夫して、イメージする定着を図っていく。
生命	市の平均よりも6ポイント下回った。 ○脊椎動物を分類する特徴については市の平均とちかかった。 ●蒸散に関する問題は、10ポイント以上低い。	・生物分野では、観察を通して理解し、深めさせていくことを授業の中で取り組んでいく。 ・蒸散は実験では難しいため、映像を通して理解させ計算問題などで復習し定着を図る。
地球	市の平均よりも7ポイント低い。 ●大気圧の問題では10ポイント以上低く離れている。	・地学の領域については、興味はあるが定着が図られていない。授業の中でも、基本的な用語の確認をし、興味を高めるような問題についても取り組んでいく。

宇都宮市立陽西中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	62.1	66.8	61.5
	読むこと	55.1	60.9	55.5
	書くこと	52.3	60.5	50.9
観点別	知識・技能	62.5	68.1	64.1
	思考・判断・表現	48.2	55.0	45.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>市の平均正答率を4.7ポイント下回っている。</p> <p>○「英文を聞き、その内容を理解して、英文の内容に合う絵を選んでいる。」の平均正答率は、市の正答率よりも0.5ポイント上回っている。</p> <p>●「英文を聞き、その要点をとらえて自分の考えを書いている。」の平均正答率は、市の正答率よりも10.1ポイント下回っている。</p>	<p>・授業における教師の英語の使用量やデジタル教科書の活用を今後も続けていくとともに、聞いた内容を日本語や英語で短く要約する練習を積み重ねていく。また、学んだ文法を用いて、自分の考えをアウトプットする活動を日常的に取り入れていく。</p>
読むこと	<p>市の平均正答率を5.5ポイント下回っている。</p> <p>○「メールを読み、その内容を理解している。」の平均正答率は、市の正答率よりも0.3ポイント下回っているが、全国の平均を15ポイント上回っている。</p> <p>●「対話文の情報を読み取り、その内容を理解している。」の平均正答率は、市の正答率よりも9.8ポイント下回っている。</p>	<p>・教科書の内容を読み取る際に、全体を大まかに捉えてから詳細を見ていくなど、段階的な指導をしていく。特に対話文においては、全体像を捉えるための「5W1Hの整理」や、話者の意図を推測しながら読み進める練習を授業の中に取り入れていく。また、音読練習を習慣づけ、意味のまとまりを意識した読解練習も日常的に行っていく。</p>
書くこと	<p>市の平均正答率を0.9ポイント下回っている。</p> <p>○「文の語順を理解し、正確に書いている(未来を表すwill)」の平均正答率は、市の正答率よりも2.7ポイント下回っているが、全国の平均を3.8ポイント上回っている。</p> <p>●「学習に取り組む場所について、自分の考えや意見を、相手に伝えるように書いている。」の平均正答率は、市の正答率よりも13.4ポイント下回っている。</p>	<p>・習った文法を用いて、伝えたいことについてどのように文章にて表すかを考え、英作文作成などの学習活動を多く取り入れていく。特に、正しい1文を書く練習を日常的に行い、その後段階的に理由や具体例をセットで書く練習を行う。</p>

宇都宮市立陽西中学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
わかる授業」の展開 授業力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 『宇都宮モデル』に基づいて「はっきり」「じっくり」「すっきり」を意識して授業のプランを考える。 『本時のねらい』と『本時のまとめ』を明確に示し授業の中で生徒に意識させる。 	「学校の授業がどの程度分かりますか」について ・1年生 78.5%(市 82.9% 昨年度 81.6%) ・2年生 77.4%(市 79.3% 昨年度 72.3%) ・3年生 78.2%(市 80.0% 昨年度 80.9%)
	<ul style="list-style-type: none"> 1人1台端末の効果的な使い方を工夫していくなど、教員生徒ともにICT機器を有効に活用し、より具体的でわかりやすい授業の展開を工夫する。 	「パソコンを使って相手に分かりやすく伝えることができる」について ・1年生 91.1%(市 88.0% 昨年度 81.0%) ・2年生 84.9%(市 89.1% 昨年度 88.6%) ・3年生 93.1%(市 89.7% 昨年度 83.7%)
	<ul style="list-style-type: none"> 協働的な学びを意識した授業作りを心がけ、学び合いが深まるような授業の展開を工夫する。 	「グループなどの話し合いに自ら進んで参加している」について ・1年生 72.6%(市 80.2% 昨年度 84.4%) ・2年生 84.3%(市 82.8% 昨年度 74.7%) ・3年生 85.6%(市 84.7% 昨年度 83.0%)
家庭学習の習慣化	<ul style="list-style-type: none"> 自主学习について、授業や学級の時間の中で「どんなことをやったらよいか」分からない生徒のために、具体的にアドバイスをを行う。 授業の内容を復習できるように、宿題や家庭学習で使用できるような補助プリントを適宜提供する。 	「自分で計画を立てて家庭学習に取り組んでいる」について ・1年生 48.9%(市 55.6% 昨年度 52.4%) ・2年生 50.9%(市 54.3% 昨年度 44.6%) ・3年生 66.1%(市 63.9% 昨年度 66.7%) 「学習しているいろいろなことが分かったり、できるようになったりすることはうれしい」について ・1年生 89.6%(市 91.3% 昨年度 91.8%) ・2年生 93.1%(市 92.3% 昨年度 90.4%) ・3年生 96.6%(市 92.7% 昨年度 84.4%)

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

○分かる授業の展開・授業力の向上にむけて

- 指導目標に対して、『十分満足・概ね満足・努力を要する生徒』それぞれの習熟に応じて手立てを考え、「わかる」授業を実践する。支援を要する生徒に対しては、適切な声かけや意図的な指名等を工夫し、配慮していく。
- ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくりを心がける。
- 『宇都宮モデル』に基づいて「はっきり」「じっくり」「すっきり」を意識して授業のプランを考える。

また、『本時のねらい』と『本時のまとめ』を明確に示せるよう掲示用カードを各教室に配置し、授業の中で生徒に意識させる。

- 陽西地域学校園「授業力向上プロジェクト」として、授業づくりの重点目標を作成し、一人一授業公開を実施する。
- 協働的な学びを意識した授業作りを心がけ、学び合いが深まるような授業の展開を工夫する。
- 学びに向かわせるために、知的好奇心を高める授業の工夫を行う。
- 各調査の「学習と生活についてのアンケート」の効果的な活用を図るため、分析をしっかりと行い、全職員に共通理解を図り指導に生かす。
- 生徒の理解力に合わせた1人1台端末の効果的な使い方を工夫していくなど、ICT機器を有効に活用し、より具体的でわかりやすい授業の展開を工夫する。

○家庭学習の習慣化にむけて

- 何を学習すればよいか、どのように進めればよいかの分かるように各教科の授業等において効果的な学習の進め方を指導するなどの支援を適宜行う。また学級担任は生徒がどのように進めているかを確認し、アドバイスをするなどの支援を行う。
- 定期テストにおいては、学習のポイントや身につけさせたい内容を明確に示すことで、生徒が目標を持って取り組むことができるよう支援する。
- 「分かるうれしさ」や「できるようになる喜び」を生徒が持っていることから、上記をあわせて分かる⇒できる授業を展開していき、生徒が家庭での復習に繋がれるようにする。